

2 充実した人生を送るための生涯学習の推進

- 1 家庭教育推進事業
- 2 青少年健全育成事業
- 3 各種団体育成指導事業
- 4 成人式開催事業
- 5 文化芸術振興事業（音楽鑑賞会開催事業）
- 6 文化芸術振興事業（音楽教室開催事業）
- 7 文化芸術振興事業（学校文化施設開放事業）
- 8 文化芸術振興事業
（文化・スポーツ振興財団活動助成）
- 9 文化芸術振興事業（俳句教室開設事業）
- 10 男女共同参画推進事業
- 11 ディスカバー「滑川」ふれあい事業
- 12 姉妹都市交流事業
- 13 社会教育活動総合事業
- 14 郷土芸能活性化事業
- 15 心豊かなまちづくり推進事業
- 16 地区公民館活動推進事業
- 17 地区公民館整備事業
- 18 図書館管理事業
- 19 図書館運営事業
- 20 子ども図書館管理運営事業
- 21 本とのふれあい推進事業
- 22 市美術展開催事業
- 23 文化財保存調査事業
- 24 ネブタ流し継承事業
- 25 博物館管理事業

- 26 博物館運営事業
- 27 展覧会等開催事業
- 28 青志会館管理運営事業
- 29 働く婦人の家管理運営事業
- 30 青雲閣管理運営事業

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	家庭教育推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	項 04	社会教育費
施策名	①家庭教育力の向上	目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
子どもをもつ親

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
家庭教育の大切さを伝え理解してもらい、子育ての悩み等を話し合うことで、自信をつけたり、家庭教育に積極的に参加してもらったりする。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
家庭教育の大切さを伝え、理解してもらうことを目的とした「子育て講座」を小学校に入学する児童の保護者を対象に開催する。また、学習参観日等に講師を派遣し、保護者を対象に「親を学びつたえる学習プログラム」を利用したグループワークを取り入れた「親学び講座」を小中学校で開催する。平成24年度から幼稚園・保育園等から希望する園で「親学び講座」を実施している。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
親学び・子育て講座参加者数	人	目標	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
		実績	781	697	587		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
子育て支援・親学び講座開催数	回	計画	18	20	20	20	20
		実績	18	18	18		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			165	172	159	225	230
財 源 内 訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		165	172	159	225	230

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	近年核家族化、児童虐待問題等で家庭教育の必要性は高まっており、行政が主体となり実施すべき事業である。
有効性	高い	新たな環境でストレスを感じる親や子供達も多く、情報交換は有意義である。
効率性	やや低い	親学び講座でもグループで対話する形式を取り入れ、活発な発言が見られた。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

今後の子育て講座や、親学び講座の参加者の増加や開催内容、方法を検討していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	各講座は、グループワーク、講座形式など、各校(所・園)の実情や希望に合わせて、工夫しながら開催している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	青少年健全育成事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 10	教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	項 04	社会教育費
施策名	②青少年健全育成の推進	目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
児童、生徒、青少年

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
滑川市の青少年が、犯罪に巻き込まれず安全に、健全に成長していくよう、地域で連携して見守っていく。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
少年補導件数	件/年	目標 実績	0	0	0		
根拠							
		目標 実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
少年補導センター、青少年育成滑川市民会議などの団体と連携し、挨拶運動や体験活動を行っていく中で、青少年の健全育成を図る。 少年補導センターは、犯罪や非行の抑止力として街頭の巡回補導を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
補導員活動日数(延べ)	回	計画 実績	150 124	150 130	150 148	150	150
		計画 実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			262	247	293	323	330
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		262	247	293	323	330

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	青少年の健全育成は市にとって重要な課題であり、必要な事業である。
有効性	高い	青少年の健全育成は市にとって重要な課題であり、有効な事業である。
効率性	やや高い	最低限の費用で活動を行っており、費用対効果の面では問題はない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

巡回補導の参加率を上げることが必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	巡回補導の開催時期や内容を検討している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	各種団体育成指導事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	科 項 04	社会教育費
施策名	②青少年健全育成の推進	目 目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
滑川市連合婦人会・滑川市児童クラブ連合会

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
団体の積極的な活動を促すよう補助することで、地域コミュニティの醸成や新たな担い手の育成を促す。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
連合婦人会会員数	人	目標	100	100	100	100	100
		実績	101	101	101		
根拠							
児童クラブ連合会会員数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		実績	1,652	1,652	1,632		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
地域コミュニティの醸成や新たな担い手の育成のため、市内の社会教育団体に活動費を助成する。

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
助成した社会教育団体数	団体	計画	2	2	2	2	2
		実績	1	1	2		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			160	160	320	320	320
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		160	160	320	320	320

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	コミュニティの希薄化により、社会教育団体の役割は増しており、どちらも営利目的の団体ではないため、助成することは必要である。
有効性	やや高い	連合婦人会及び児童クラブ連合会の会員数は横ばいであるが、活動をサポートすることは有効であり、どちらも活発に活動している。
効率性	やや高い	直接各団体へ補助金を支給しており、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

連合婦人会では、新規加入者が少なく、会員の高齢化や次世代の担い手の不足が懸念される。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	会員の高齢化や次世代の担い手不足は、他団体や伝統行事分野などでも起こっており、解決策を検討している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	成人式開催事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項 04	社会教育費
施策名	②ふるさと教育の推進	目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
新成人

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
新成人一人一人を祝福し、成人となった自覚を促すとともに、滑川市への愛着を育む。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名		単位	R3	R4	R5	R6	R7
参加率	%	目標	80	80	80	80	80
		実績	81	77	80		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
新たに二十歳を迎える若人の前途を祝福するとともに、新二十歳の代表が実行委員となり、社会人としての自覚と誇りを促すために二十歳の式典を実施する。成人のしおりに滑川市の魅力を掲載する。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
周知回数 (案内状含む)	回	計画		6	6	6	6	6
		実績		6	6	6		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				809	745	549	688	659
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			809	745	549	688	659

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	二十歳を祝い、社会人としての自覚を促すことは必要である。
有効性	やや高い	二十歳の式典として新しく位置づけ、時代に対応した事業として、コロナ禍でも実行委員会を立ち上げ努力している。
効率性	高い	内容については、二十歳の実行委員会で話し合い、必要最低限の経費で行われている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	文化芸術振興事業（音楽鑑賞会開催事業）	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会計 01	教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	款 10	社会教育費
施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	項 04	社会教育総務費
根拠法令等		目 01	

事業の対象

誰・何に対して
市内音楽団体・全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
芸術文化の振興を目的として全市的に活動を行っている音楽団体の支援を行う。 豊かな心の育成及び表現力、感受性の向上を目指し、親子向けの音楽鑑賞会を開催する。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
年1回開催される定期演奏会の開催を支援するため、補助金を交付する。 「光のコンサート」特別ゲスト等による親子を対象としたコンサートを実施する。 親子の音楽鑑賞会の来場者が増えるよう、チラシや広報、ホームページで周知するなど、PRを行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
入場者数	人	目標	200	200	200	200	200
		実績	178	150	200		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
補助金交付団体数	団体	計画	2	2	2	2	2
		実績	2	2	2		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			322	331	371	284	330
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他		1	1	1	1	
	一般財源		321	330	370	283	330

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市の芸術・文化振興のため、音楽団体に助成を行うほか、幼い子供を対象とした音楽鑑賞会を開催することは必要である。
有効性	高い	市民の間では定着したイベントとなっており、有効である。
効率性	高い	助成金については最低限の額であり、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		文化芸術振興事業（音楽教室開催事業）	担当部署			生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	6 文化・芸術の振興		項	04	社会教育費
	施策名	①文化芸術に触れる機会の充実		目	01	社会教育総務費
根拠法令等						

事業の対象

誰・何に対して
市内小・中学生

事業の目的と達成度

意図（対象をどのようにしたいか）
専門家の指導を受けることで演奏技術を向上させたり、プロの演奏を生で聞くことで豊かな感性を育んだりする。

成果指標（どの程度意図が達成されたか）							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
音楽教室参加者数	人	目標	800	800	800	800	800
		実績	371	417	370		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段（事業の内容・目的達成に向けた取組み）
各小中学校において講師を招き、音楽教室を開催する。小学校においては、児童を対象とした音楽鑑賞会や実技指導を実施する。中学校においては、吹奏楽部員を対象とした講習会を実施する。

活動指標（どの程度手段を実施したか）						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
音楽教室実施回数	回	計画	9	9	9	9
		実績	9	8	9	
		計画				
		実績				
コスト（千円）			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			175	165	270	270
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		175	165	270	270

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	音楽を通して子供の豊かな心を育むため、必要である。
有効性	高い	大会で優秀な成績を収める等、成果が上がっている。
効率性	高い	最低限の講師謝礼のみの予算で実施しており、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項（改革・改善案）	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	文化芸術振興事業（学校文化施設開放事業）	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
生涯学習活動を促進する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
生涯学習センター利用者数	人	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
		実績	1,939	1,855	2,345		
根拠							
地域交流センター利用者数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		実績	2,175	1,800	2,356		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
学校が使用していない夜間・休日の施設管理をシルバー人材センター委託し、生涯学習センター・地域交流センターの開放を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
生涯学習センター開 放日数		日	計画	359	359	359	359	359
			実績	359	359	359		
地域交流センター開 放日数		日	計画	359	359	359	359	359
			実績	359	359	359		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				269	294	371	371	371
財 源 内 訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			269	294	371	371	371

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	生涯学習の振興のため、施設の有効活用は市民のニーズに合っており、必要性が高い。
有効性	やや高い	無料で施設を利用できることから人気があり、利用者にとって有益である。
効率性	高い	事業費は開放作業の委託料のみであり、コストは最小限に抑えられている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	大井 萌莉
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	文化芸術振興事業（文化・スポーツ振興財団活動助成）	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 算 目 録	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会 計	10 教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	款	04 社会教育費
施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	項	01 社会教育総務費
根拠法令等		目	

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図（対象をどのようにしたいか）	
市民が文化芸術に親しむ機会が充実している。	

成果指標（どの程度意図が達成されたか）

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
公演等参加人数	人	目標	4,390	4,390	4,390	4,390	4,390
		実績	3,551	4,054	7,159		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段（事業の内容・目的達成に向けた取組み）	
滑川市文化・スポーツ振興財団が実施する自主・協賛事業に対し、助成を行う。各公演の周知や運営等、公演の開催にあたり、協力する。	

活動指標（どの程度手段を実施したか）

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
公演回数	回	計画	14	14	14	14	14
		実績	13	15	19		
		計画					
		実績					
コスト（千円）			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			8,467	9,065	8,032	10,000	10,000
財源内訳							
	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		8,467	9,065	8,032	10,000	10,000

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	チケット収入だけでは公演の経費が賄えないことから必要である。
有効性	高い	各種、魅力的な事業を実施している。
効率性	高い	財団へ補助金という形で支出しており、効率的である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項（改革・改善案）	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		文化芸術振興事業（俳句教室開設事業）	担当部署		生涯学習・スポーツ課	
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	6 文化・芸術の振興		項	04	社会教育費
	施策名	①文化芸術に触れる機会の充実		目	01	社会教育総務費
根拠法令等						

事業の対象

誰・何に対して
小中学生及び全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
俳句文芸の継承と振興を図り、「香り高い文化のまちづくり」を目指す。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
俳句教室参加者数	人	目標	30	30	30	30	30
		実績	0	5	4		
根拠							0
俳句ポスト投句数	句	目標	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500
		実績	7,376	6,448	5,891		
根拠							0

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①俳句大会の開催(市制70周年記念大会) 俳句公募コンテストの実施 講演会の開催
②小中学生俳句教室の開催 俳句についてのお話 作った俳句の鑑賞
③俳句ポストの設置 毎月入選句を選び、「広報なめりかわ」に掲載 上半期・下半期の優秀句作者の表彰

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
俳句大会開催数	回	計画		1	1	1	1	1
		実績		0	1	1		
俳句教室開催数	回	計画		1	1	1	1	1
		実績		1	1	2		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				69	73	976	88	88
財源内訳	国県支出金			0	0	0	0	0
	地方債			0	0	0	0	0
	その他			0	0	0	0	0
	一般財源			69	73	976	88	88

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	伝統的な俳句文化の継承・振興のために必要である。
有効性	やや低い	事業や活動の内容については適切であるが、小中学生以上の若年層から中壮年層にかけての参加が少なく、参加者層に大きな偏りが見られる。またコロナ以降、俳句教室が低調である。
効率性	やや高い	必要最低限のコストで事業を行っている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

投句された俳句を毎月広報に掲載していること、多くの小学生が俳句ポスト事業に参加していることは、県内でも独自色があり特筆すべき点として評価できるが、俳句教室の参加者数は年々減少傾向にあり、幅広い層に認知・参画してもらえるような取り組みが必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	市内の団体等に積極的な参加を呼びかけるとともに、市外の俳句愛好家等への周知を目指し、SNS等も利用した広報手段を検討していく。令和4年度に俳句ポストの設置場所を見直し、QRコードを使ったWeb投句を始めたことで利便性が向上したが、より多くの活用を目指し周知を図っていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	事業内容自体は継続していくが、令和4年度より「文化芸術振興費」内で実施。(統合)

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	白井 友理
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	男女共同参画推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策3 住み慣れた地域で生き生きと暮らせるまちづくり	款 10	教育費
基本施策	12 人権・多様性を尊重する社会の推進	項 04	社会教育費
施策名	②男女共同参画社会の実現	目 01	社会教育総務費
根拠法令等	男女共同参画基本法、滑川市男女共同参画計画 ～第3次ときめき かがやき ひかりのプラン～		

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
滑川市男女共同参画計画に基づき、「ともに認め合い、支え合う、ひかり輝く社会の実現」を総合目標とし、男女共同参画推進事業を実施する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
家庭生活において男女平等になっていると感じる人の割合	%	目標	34	35	36	37	38
		実績	30	37	19		
根拠							
地域活動において男女平等になっていると感じる人の割合	%	目標	30	31	32	34	35
		実績	19	32	20		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①男女共同参画に対する正しい理解と認識を深めるため、男女共同参画推進員による啓発活動を実施する。
②男女共同参画に関する意識啓発と計画の周知のため、男女共同参画公開講座を実施する。

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
推進活動取組回数	回	計画	3	3	3	3	3
		実績	3	3	3		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			609	609	680	779	780
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		609	609	680	779	780

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	今後の日本社会が発展するために、男女共同参画社会の実現は必須である。
有効性	やや高い	男女ともに、各方面で男女の役割についての意識が変わりつつある。
効率性	やや高い	啓発活動は、各地区の連絡会へ委託しており効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

各種の取り組みは、現在、各地域の推進員連絡会への事業委託が中心だが、地域の方も多忙であることなどから取り組みも地域でムラが見られる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	今後の連絡会の在り方や、活動の適当な実施主体について検討している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	ディスカバー「滑川」ふれあい事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 算	会計 01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款	10 教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	項	04 社会教育費
施策名	②青少年健全育成の推進	目	01 社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全小中学生	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
地域と連携しながら、ふるさと滑川を普段とは異なった視点で見つめることにより、郷土を愛し、主体的に判断し行動する能力を身に付ける。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ふるさと探検事業参加者数	人	目標	100	100	100	100	100
		実績	80	84	80		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①学校地域交流事業では、市内小中学校の児童会や生徒会が中心となり、地域清掃、募金活動、エコキャップ回収などのボランティア活動や、あいさつ運動、地域の方々とふれあう活動を通して、相手を思いやる心を育むことを目指す。	
②小中学生とその保護者を対象に、滑川の自然・文化・歴史に関する体験活動を実施することで、滑川市を再発見してもらう。	
③郷土偉人の業績を学ぶことができる行事を開催する。	
④なめりかわ未来学校では、子供たちに探究的な学びの機会を提供することで、社会参画意識を育むことを目的とし実施する。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ふるさと探検事業開催日数	日	計画	4	4	4	4	4
		実績	4	4	4		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			669	723	468	542	776
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		669	723	468	542	776

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	ふるさと滑川を愛する心を涵養するために必要である。
有効性	やや高い	事業参加者には、ふるさと滑川を深く知ってもらうよい機会になっている。
効率性	高い	学校や各施設の協力のもと市が直接実施している。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

各事業に対して、応募者が多く先着順で定員に達してしまい、参加できない方がいる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	事業の実施時期や内容を見直し、可能な限り参加してもらえる方法を検討している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	姉妹都市交流事業	担当部署	生涯学習課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	02 総務費
基本施策	4 生涯学習の充実	項	01 総務管理費
施策名	②ふるさと教育の推進	目	01 一般管理費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
市内の児童

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
姉妹都市豊頃町の少年親善使節団を受け入れ、互いの郷土のよさを紹介し合い、友情と相互理解を図ることを通して、滑川市への愛着を深める。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
参加者数	人	目標	—	—	14	
		実績			15	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
姉妹都市交流事業では、滑川市内での活動と一緒に、行くことで友情を育む。また、互いの郷土のよさや違いを伝え合うことを通して相互理解を図るとともに、郷土のよさを見つめ愛着を深める。

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
実施回数	回	計画	—	—	1	
		実績	—	—	1	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額					198	
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源				198	

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	姉妹都市との交流は重要であり、風土の違う土地で育った児童を受け入れることによって郷土の良さを再発見できる機会が貴重であり、子供たちの将来の財産となる。
有効性	やや高い	豊頃町と滑川市の互いの良さを学ぶことにより、滑川の良さを再発見するとともに、認め合う心等も学び、互いの絆が深まる。
効率性	やや高い	豊頃町の皆さんの協力により成り立っている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

令和5年度は、豊頃町の児童を滑川市に受け入れる年であった。新型コロナウイルス感染症の影響により中断したホームステイは、双方の負担も多く実施をしていない。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	令和7年度の実施については、令和6年度の豊頃町へ訪問の成果を踏まえ、担当者と綿密に調整する必要がある。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	社会教育活動総合事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目	公民館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
いつもで、どこでも、誰もが、自ら気軽に学び続け、学んだことを生かして地域で活躍するなど、生涯学習を通じた生きがいや喜びを育む。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①各分野で活躍中の郷土ゆかりの講師を招き、市民が最新情報に触れることができ、郷土愛を育むことができる講座を開催する。
②生涯学習センターを中核として、60歳以上の方々がふれあいを通し、自らの生活の中に生きがいを見いだせる教養講座やレクリエーション教室、野外活動教室等を開催する。また、一般市民向けに書道、油絵、陶芸、詩吟の実技講座を開催する。
③市民向けに生涯学習に関する便りを発行し、全戸配布することで、生涯学習活動の紹介等の広報活動を行う。
④情報を集め、新しい講師の人材発掘に努める。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
生涯学習講座登録者数	人	目標	850	850	850	850	850
		実績	638	667	624		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
福寿大学開催日数	日	計画	14	14	20	20	20
		実績	14	17	20		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			1,107	1,070	1,139	1,251	1,437
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		1,107	1,070	1,139	1,251	1,437

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	どの事業も生涯学習の充実のために必要である。
有効性	やや高い	各世代に対応した各種講座や講演会を定期的に開催したり、情報紙を定期的に発行したりしており、有効である。
効率性	高い	最低限の講師謝礼と印刷費等の予算であり、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

事業の形骸化、マンネリ化防止、参加者増加の工夫をする必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	受講者のニーズに合わせ魅力的な内容になるよう努めると共に、より快適に学べる会場を探している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	郷土芸能活性化事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項	04 社会教育費
施策名	②文化財と伝統芸能の保護と活用	目	02 公民館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
全市民、保存団体及び後継者(小中学生)

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
地域に伝承される郷土芸能育成保存の姿勢から、関係団体と連携を図り、行政が一体となり、保存伝承の方策を講じる。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
舞踊の伝習会	回	目標	30	30	30	30	30
		実績	30	30	30		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①保存継承団体の運営支援、補助金を交付する。 ②後継者育成のために、小中学生対象の伝習活動を実施する。 ③発表会等の実施支援を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
伝習訪問校	校	計画		9	9	9	9	9
		実績		9	9	9		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				644	680	688	732	732
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			644	680	688	732	732

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	どの事業も伝統芸能を継承し活性化していくためには必要である。
有効性	やや高い	直接小中学生に踊りを伝承しており、ほぼ全ての方が踊れることから有効である。
効率性	高い	最低限の講師謝礼と消耗品等の予算であり、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

踊りだけでなく、唄、三味線も伝承されるよう支援が必要である。
講師の高齢化のため、講師の後継者の確保が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	授業で踊りの伝承を行っており、音楽で三味線の体験学習に取り組む学校もある。 講師の方から後継者の候補を伺い、現状の周知と依頼をし人材の確保に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		心豊かなまちづくり推進事業	担当部署		生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01 一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10 教育費
	基本施策	4 生涯学習の充実		項	04 社会教育費
	施策名	②ふるさと教育の推進		目	02 公民館費
根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
①世代間の交流を促進し、地域の絆や教育力の向上を図る。 ②ふるさと滑川の自然・歴史・文化に対する理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着を育む。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
「ふるさと講座」参加者数	人	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		実績	1,255	1,591	2,121		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①地区公民館において、地域の人材を活かして多世代のふれあい活動及び各種教養教室を実施する。 ②各地区公民館において、様々な年代が一緒に参加できる、地元の自然、文化、歴史を学ぶ「ふるさと講座」を実施する。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
ふるさと講座実施回数	回	計画		18	18	18	18	18
		実績		22	25	23		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				1,336	1,350	1,350	1,350	1,350
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			1,336	1,350	1,350	1,350	1,350

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	ふるさと滑川について、身近な地区公民館を通して学ぶ機会であり必要である。
有効性	高い	地元の歴史や文化に触れ、ふるさと滑川の良さを再発見するよい機会である。
効率性	高い	各地区公民館へ事業を委託しており、効率的である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

コロナによる参加人数の減少が尾を引いている。コロナ禍で得たアイディアを生かしつつ、より良い活動を実施していく必要がある。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	各地区公民館にて工夫して行事の再開に取り組んでいる。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	地区公民館活動推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款 10	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項 04	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目 02	公民館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
地区公民館を中心とした地域コミュニティの形成を推進するため、多世代のふれあい活動、各種講座等の地域における公民館活動を支援する。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
地区公民館利用者数	人	目標	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
		実績	51,636	47,205	51,377		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①地区公民館において、公民館まつり、住民運動会、各種レクリエーション、講座等の実施	
②地区公民館の管理にかかる費用の支出	
③地区公民館実施事業参加者及び公民館職員に対する保険の加入	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
コミュニティづくり推進事業取組件数	回	計画	45	45	45	45	45
		実績	27	40	40		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			27,873	29,087	31,435	36,061	32,000
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		27,873	29,087	31,435	36,061	32,000

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	地区公民館を中心としたコミュニティの形成は近年重視されており、必要である。
有効性	高い	市民のニーズに応じた内容になるように心がけており、有効である。
効率性	高い	コミュニティづくり推進事業は、地区公民館へ委託しており、効率的である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、地区公民館における様々な行事に影響が出ている。新たな試みとして、DXを推進した公民館活動を、今後調査研究していく。

今後の方向性

成果の方向性	拡大	投入コスト	増額
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	タブレット端末の配布等を検討している。 また、公民館職員を対象としたデジタル対応の研修会を実施する予定である。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	デジタル対応するための機材が、各地区公民館にはないため、デジタル技術に対応できるよう機材を購入する。

その他

--	--	--	--	--	--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		地区公民館整備事業	担当部署			生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	4 生涯学習の充実		項	04	社会教育費
	施策名	①生涯学習活動の推進		目	02	公民館費
	根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
各地区公民館利用者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
地区公民館を快適に利用して頂けるよう、整備・修繕を行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
			目標					
			実績					
根拠								
			目標					
			実績					
根拠								

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
公民館より要望を聞きとり、順次必要な修繕を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
整備実施件数		件	計画	40	10	20		
			実績	26	18	15		
			計画					
			実績					
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				12,528	400	4,990	7,088	1,268
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			12,528	400	4,990	7,088	1,268

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	地区公民館を安全・正常に利用していただくために必要である。
有効性	高い	施設が老朽化している中で、施設を維持管理するためには、非常に有効である。
効率性	低い	あまりにも予算が少ないことから、すぐには対応できない事業が多く、状態が悪化しきった後に対応することが多いため、余計なコストがかかると同時に、市民からの多くの苦情が寄せられている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

各地区公民館では、施設だけでなく設備も老朽化が進んでおり、限られた最小限の予算の中で対応している。予算の都合により、各地区からの改善要望に応えられない部分も多くあり、基本的には壊れたものを直す対応となる。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	増額
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	修繕料として流用できる予算を探している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	ほとんどの公民館では施設や設備が古く、大幅に対応年数を超過しているものが多数存在していることから、定期的な更新や、壊れた際に速やかに対応できるような修繕予算を確保しておきたい。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	図書館管理事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項	04 社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目	03 図書館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図（対象をどのようにしたいか）	
利用者が安心、図書館を積極的に快適に利用できるよう適切な施設管理を行う。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
来館者数	人	目標	120,000	130,000	150,000	150,000
		実績	102,548	100,064	100,641	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
屋上や外壁など適切に修繕を行い、利用者が安心して利用できるよう図る。 館内をこまめに巡回し、蔵書や備品等の整理・整頓に努めるとともに、来館者全員が快適に利用できるよう、利用マナーを促進する。 清掃、消毒、換気を徹底し、感染症予防に努める。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
開館日数	日	計画	297	297	297	297
		実績	294	290	293	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			13,484	14,120	14,546	26,066
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		13,484	14,120	14,546	26,066

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	生涯学習施設として、市民が安心して利用できるよう管理・整備を継続することが必要である。
有効性	やや高い	維持管理について、必要最小限の経費でできるよう努めている。
効率性	やや高い	省エネルギー化に努めているところである（照明のLED化について検討）

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

館内設備が老朽化し、順次修繕が必要。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	照明のLED改修工事実施予定
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	照明基盤の老朽化による不点箇所補修・LED化 一部排煙窓開閉不可箇所の補修 剥落防止のため、外壁の補修

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	澤口 幸二	作成者	大嶋 真理
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	図書館運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	科 項 04	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目 目 03	図書館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
より利用しやすく親しみやすい図書館を目指し、利用者の増加を図るとともに、市民の生涯学習を推進する

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
市民1人あたりの貸出冊数	冊/人	目標	5.0	6	7	8	8
		実績	5	5	5		
根拠 第5次滑川市総合計画(R7年度:10冊)							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①来館者数の増加 ・喫茶コーナーのPR ・ミニコンサートの開催
②利用者の利便性向上 ・利用者層を考慮し、ニーズに合わせた資料の充実 特集コーナーを設置し、利用者へのPRを行う ・リクエストの積極的対応(資料購入、相互貸借) ・レファレンス能力を向上させ、市民の「知りたい」に答えられるようにする。

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
リクエストサービス	冊	計画	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		実績	752	545	627		
レファレンスサービス	件	計画	50	50	50	50	50
		実績	92	141	150		
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			15,602	15,101	17,669	18,518	15,602
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他		680	710	748	740	680
	一般財源		14,922	14,391	16,921	17,778	14,922

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	法的位置づけがされており、生涯学習の推進、地域の課題解決、読書文化の向上のために一定の役割がある。
有効性	やや高い	貸出冊数など、成果目標達成のために、利用者の要望に応じた細やかなサービスが必要である。
効率性	やや高い	省資源化など、コスト削減に努めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

市民1人あたりの貸出冊数、来館者数(特に若年層)などが伸び悩んでいる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	インターンシップの積極的な受け入れや学生の作品展示、青少年向け図書の購入を押し進め、時節に応じた特集コーナーを設けるなど、利用者増に向けて取り組んでいる。 館内レイアウトを随時見直し、利用しやすい空間の提供に努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	・電子図書館サービス導入 ・新聞データベース導入 ・国立国会図書館との連携

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	澤口 幸二	作成者	大嶋 真理
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	子ども図書館管理運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項	04 社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目	03 図書館費
根拠法令等	滑川市立図書館条例、滑川市立図書館条例施行規則		

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	より子どもたち・保護者に親しまれる子ども図書館を目指し、利便性を向上させ利用者の増加を図る。
------------------	--

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
来館者数	人	目標	30,000	30,000	30,000	30,000
		実績	31,394	29,920	31,516	
根拠						
授業に必要な図書の利用冊数	冊	目標	600	600	600	600
		実績	849	598	707	
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	子ども図書館は、すべての子どもに読書の喜びと大切さを伝える場として、より多くの子どもたち・保護者に親しまれ、利用していただくよう、積極的にPRLし、利用者の増加を図った。
-----------------------	---

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
出張おはなし会・出前講座	回	計画	10	10	10	10
		実績	18	15	20	
蔵書数	冊	計画	36,000	36,000	36,000	36,000
		実績	37,075	38,171	39,505	
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			7,346	7,693	8,667	8,439
財源内訳						
国県支出金						
地方債						
その他				250	150	
一般財源			7,346	7,443	8,517	8,439

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	図書館は社会教育機関という位置づけがされており、市民の生涯学習や情報収集の場として不可欠である。
有効性	高い	図書館資料を通じた親子のふれあいの場、子育て支援施設として役割を果たすこととなり有効である。
効率性	高い	必要最低限のコストでの運営に努めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	妻木 朋子	作成者	斉藤 めぐみ
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	本とのふれあい推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	科 項 04	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目 目 03	図書館費
根拠法令等	滑川市立図書館条例、滑川市立図書館条例施行規則		

事業の対象

誰・何に対して
市内の子どもたち(主に乳幼児～中学生)とその保護者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
子どもと親が集い交流する場として、にこにこたいむ(ふれあいあそび)、子育て支援講座、おはなし会、ワークショップ等、本を通じた子育て支援事業を実施し、出産・育児をしやすい環境を整える。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
○子育て支援 ・子育て支援講座(年5～6回) ・子育て相談 子ども図書館職員(保育士)が対応
○イベント開催 ・おはなし会(週1～2回)(職員・ボランティア・おはなし会グループ) 絵本・紙芝居の読み聞かせ ・子ども映画会(月1回) DVDの上映(職員・ボランティア) ・おたのしみ会(年4回程度) 人形劇・ミュージカル等 ・工作コーナー(毎週土日) ・読書週間イベント(年2回) ・ワークショップ ・作品展示 市内保育園(所)・幼稚園児、中高生の作品を展示 ・ブックスタート事業

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
子育て支援講座・おはなし会等イベント参加者数	人	目標	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
		実績	6,081	6,868	8,478		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
子育て支援講座開催回数	回	計画	6	6	6	6	6
		実績	5	6	10		
各種イベント開催数(おはなし会・おたのしみ会・ワークショップ)	回	計画	230	230	230	230	230
		実績	241	251	257		
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			1,068	640	712	641	650
財 源 内 訳	国県支出金						
	地方債						
	その他		530	30	43		30
	一般財源		538	610	669	641	620

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	子育て支援を行う施設の柱として本を通じた子育て支援事業を実施する事は重要である。
有効性	高い	子供たちが本と親しむ様々なイベントを企画し実施している。
効率性	高い	必要最低限のコストでの運営に努めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

図書館資料を通じた様々なイベントを企画し、より利用者にあった活動内容となるよう努める。
また、日頃の図書館サービス、子育て支援サービスの向上に努める。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	従来のイベントに加え、市制施行70周年にちなんだイベントの実施や、図書館資料に連動した体験型のイベントの実施をとおし、絵本をはじめとした図書館資料の持つ魅力を伝え、図書館サービスの向上に努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	妻木 朋子	作成者	斉藤 めぐみ
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	市美術展開催事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項	04 社会教育費
施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	目	01 社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
美術を通じて市民の情操を豊かに育てるとともに、優秀作家を育成し、本市の芸術・文化の向上を図る。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
入場者数	人	目標	800	800	800	800	800
		実績	662	700	680		
根拠							
出品者数	人	目標	150	150	150	150	150
		実績	141	120	115		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
●高校生以上の全市民、在勤者、在学者、出身者等を対象とした、絵画、彫刻・工芸、書、写真の4部門にわたる公募展を開催する。 ●市民等の創作作品を展覧することによって、「香り高い文化のまち」を目指し、芸術・文化の振興に努める。 ●富山県を代表する作家に審査員を委嘱し、審査会・講評会等を通じて優秀作家の育成を図る。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
広報活動回数	回	計画	5	5	5	5	5
		実績	5	5	5		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			549	542	544	600	600
財源内訳							
国県支出金							
地方債							
その他							
一般財源			549	542	544	600	600

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	「文化のまちづくり」を目指す本市にとって、市民芸術の創作発表、鑑賞の場を市が主体となって継続的に提供する必要性はやや高い。
有効性	やや高い	本市最大かつ最長の歴史を誇る公募型市民芸術祭として、毎年出品する者が多く、新規出品者も一定数見られる。また一定の入場者数を確保できていることもふまえると、事業の有効性はやや高いと思われる。
効率性	やや高い	出品資格や出品規格の見直しなどを通して効率的な運営ができていているものと思われる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

入場者数及び出品者数は過去10年以上にわたり横ばいからやや減少傾向が続く。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	出品者数の増加を図るため、出品資格及び出品規格の見直し等を行っている。また入場者の増加に向けてSNSを活用した広報活動を行っている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	盛田 拳生
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	文化財保存調査事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会計	教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	款	社会教育費
施策名	②文化財と伝統芸能の保護と活用	項	社会教育総務費
根拠法令等	文化財保護法、滑川市文化財保護条例、同施行規則、滑川市文化財保護調査委員会設置規則	目	

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
市民共有の財産である文化財を永く保存、継承していくとともに、新たな文化財を掘り起こし、市民に周知し積極的に活用していく。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①指定文化財他への指定等 市文化財保護調査委員会・同調査審議会の開催
②市有文化財の保存・管理 史跡・天然記念物
③市民への文化財の啓発及び活用
④開発に伴う埋蔵文化財の調査
⑤文化財の掘り起こし 古建築調査ほか
⑥立山黒部ジオパークの周知

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
指定・登録等文化財件数	件	目標	53	53	53	53	53
		実績	52	52	52		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
市文化財保護調査委員会の開催	回	計画	2	2	2	2	2
		実績	2	2	2		
市文化財調査審議会の開催	回	計画	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1		
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			2,734	769	884	1,230	1,230
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		2,734	769	884	1,230	1,230

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市民の共有財産である文化財を恒久的に残していくため、市が主体となって保存・継承に関わり、活用に向けた事業を行う必要がある。
有効性	高い	文化財の保存・調査・活用事業は、本市の魅力創出に資すると共に市民の郷土愛を育むことができる。
効率性	やや高い	指定文化財の保存事業を中心としながら限られた予算内で優先順位を付けて未指定文化財の調査事業を実施している。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

生活様式や自然環境の変化により急速に失われゆく未指定文化財が多く見られる中、現在の予算規模や人員配置では十分な保存・調査事業が行えていない。

今後の方向性

成果の方向性	拡大	投入コスト	増額
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	緊急性の高い文化財から順に保存・調査事業を進めていく方針で、継続事業の古建築調査に加えて令和6年度から埋蔵文化財分布調査を実施予定。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	埋蔵文化財分布調査事業については、国庫補助を活用して5か年計画で実施予定。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	盛田 拳生
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	ネブタ流し継承事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算	会計 01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項	04 社会教育費
施策名	②文化財と伝統芸能の保護と活用	目	01 社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	全市民、ネブタ流し保存会及び参加団体
---------	--------------------

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	国指定重要無形民俗文化財の保存継承のために、市民と行政が一体となって方策を講じ、推進していく。
------------------	---

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ネブタ流し参加基数	基	目標	12	12	12	12	12
		実績	12	10	10		
根拠							
寺家小学校児童参加者数	人	目標	40	40	40	40	40
		実績	56	65	80		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	①保存継承団体の組織強化 主体的活動の運営支援と補助金の交付 ネブタ流し参加団体への新規参加促進 ②担い手育成・普及活動 寺家小学校での製作伝習活動 ③団体間の交流 研修会等の開催 ④ネブタ流しの材料の確保 ワラの確保
-----------------------	---

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名		単位	R3	R4	R5	R6	R7
ネブタ流し 広報活動回数	回	計画	6	6	6	6	6
		実績	5	5	7		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			283	280	278	290	290
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		283	280	278	290	290

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	国指定重要無形民俗文化財として存続するため、大松明作成等の活動を行っている保存会等の実施団体への補助、ワラの確保等といった協力が強く求められている。
有効性	高い	滑川を代表する行事である「滑川のネブタ流し」を継承していくことは、市民の郷土愛の醸成につながり、「ふるさと教育の推進」を掲げる本市の施策にも合致する。
効率性	やや高い	保存会結成当時と比べ、参加団体数・基数ともに増加している。保存会の協力も得て、近年は安定した参加が見られているため、効率性はやや高いといえる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

国指定重要無形民俗文化財として、継承していく必要がある。本市を代表する民俗行事であるが、参加団体によっては高齢化等によって参加人員の確保が難しくなっている。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	滑川のネブタ流し保存会事務局で行事全般の取りまとめ、ワラ材の確保を行い、寺家小学校児童への伝承事業の支援等を行っている。継続的な開催のために、人員確保等が困難になりつつある団体への具体的な支援策を早急に検討していく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	魚瀬 健一郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	博物館管理事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項	社会教育費
施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	目	博物館費
根拠法令等	博物館法、滑川市立博物館条例、同施行規則		

事業の対象

誰・何に対して
市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
市民が安全かつ快適に博物館施設を利用できるようにする。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①施設の維持 電気・水道・燃料等 設備の保守点検等
②不具合箇所の修繕

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
博物館利用者数	人	目標	15,000	15,000	15,000	15,000
		実績	12,119	12,384	16,195	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
開館日数	日	計画	305	302	307	305
		実績	304	303	308	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			10,790	12,197	14,536	10,575
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		10,790	12,197	14,536	10,575

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	本市の芸術文化活動振興の拠点となる施設であり、必要不可欠である。
有効性	やや高い	現状、設備維持に必要な最低限の修繕しか行っていないが、不特定多数の来場がある施設のため、整備・修繕は不可欠である。
効率性	やや高い	可能な限り業務委託を行い効率化を図っている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

建物の築年数が約30年で老朽化が進んでおり、建物内設備に要改修・修繕箇所が多い。エレベータ設備については部品が供給停止になっているなど、故障時に大きな影響が懸念される。他施設に比べ整備が進んでいない箇所も見受けられる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	限られた予算の中、利用者の安全等に係わる部分を優先して修繕を行う。設備が全体的に古く、設備取替となるなど修繕費用が高くなる場合もあるため、故障する前の部品交換等も検討し該当箇所の洗い出しを行うとともに、必要な予算措置を行う。また、他の類似施設の取組状況等を参考にする。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	魚瀬健一郎
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	博物館運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項 04	社会教育費
施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	目 04	博物館費
根拠法令等	博物館法、滑川市立博物館条例		

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
美術・芸術団体等の成果を発表する機会の提供及び博物館の企画展以外の事業(教育普及・広報活動・調査研究等)を行う。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①常設展の運営 ②各種共催展等の開催 ③教育普及活動 出前講座(小学校等)、出講等講師派遣(一般) ④広報活動 ⑤資料・作品の受け入れ ⑥博物館カフェの運営 ⑦夕焼けコンサートの開催 ⑧博物館友の会活動

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
常設展・共催展入場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,500	7,500
		実績	7,396	6,795	6,808		
根拠							
教育普及活動参加人数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		実績	1,628	1,798	2,563		
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
美術協会・各連盟展 の開催数	回	計画		4	4	4	4	4
		実績		4	5	5		
出前講座・出講等講 師派遣回数	回	計画		19	19	19	19	19
		実績		26	28	26		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				1,990	2,102	2,677	2,658	2,661
財 源 内 訳	国県支出金							
	地方債							
	その他			334	300	512	300	300
	一般財源			1,656	1,802	2,165	2,358	2,361

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	芸術文化の成果発表、郷土文化や歴史の調査研究活動、教育普及活動についても市が継続的にを行い、積極的に広報活動等を通じて発信していくことの価値や必要性は非常に高い。
有効性	やや高い	小学校、社会教育施設、町内会をはじめとした各種団体へ、地域の歴史・文化や魅力について伝える活動を行っている。同種の活動を行っている類似施設は市内になく、有効性は高い。
効率性	やや高い	限られた人員の中で運営しているが、県内の類似施設・同規模館と比較しても費用対効果は決して低くない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

関係団体を構成する人員の高齢化は大きな課題であり、将来的な運営の方針を少しずつ考えていく時期に来ている。常設展示室の展示内容の固定化は魅力を低下させる一因である。事業数に対して人員が少ないことから、事業の新規展開が難しい。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	関係団体の高齢化は見られるものの、新たな会員の加入も見られる。常設展示室に簡易ケースを設置し、新たな展示コーナーを運営(年2回展示替え)するなど、少しでも常設展示に動きをつけようと試みている。新規事業の展開は難しい面もあるが、既存事業の充実を図っていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	近藤 浩二
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		展覧会等開催事業	担当部署			生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	6 文化・芸術の振興		項	04	社会教育費
	施策名	①文化芸術に触れる機会の充実		目	04	博物館費
根拠法令等						

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
郷土の歴史や芸術・文化活動に関する興味・関心と理解を深めるため、郷土資料や優れた美術作品等に触れる機会を広く市民に提供することで、博物館活動に関心と理解を持っていただく。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
学芸員の専門性や調査成果、市民ニーズ等を反映した企画展の開催。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
企画展入場者数	人	目標	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200
		実績	2,433	3,091	6,144		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
企画展開催数	回	計画		4	4	4	4	4
		実績		5	6	7		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				2,445	2,695	4,254	2,703	2,703
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			2,445	2,695	4,254	2,703	2,703

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	地域の歴史や文化、優れた芸術作品等の展覧会を時宜を捉えながら開催していくことは、「文化のまちづくり」に資するものと考え。
有効性	やや高い	入場者数だけを指標にすると必ずしも有効性が高いと言えないかもしれないが、来場者の満足度は高い。また、展示成果がその後の教育普及活動等に資することも多く、相対的に有効性はやや高いと言える。
効率性	やや高い	県内の類似施設・同規模館と比べても、事業費や企画展開催数等から効率性は低くない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

調査・準備期間を確保するために、中期的な事業計画を立案しているが、人的な制約から十分に組み立てられているとはいえない状況にある。即時性(入場者数)と将来性(成果の活用)のバランスを図っていく必要がある。そのためには、市民ニーズを掴むとともに、広報手段の工夫を重ね、併せて人材育成も必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	急ぎよ、中期計画の見直しが必要となってきたが、人員配置等を勘案しながら柔軟に対応していきたい。令和5年度については特別展に多くの来場者があったが、今後も足を運びたいような企画を立案していきたい。またSNSによる情報発信も積極的に行っていきたい。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	近藤 浩二
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	青志会館管理運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 10	教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	項 04	社会教育費
施策名	①家庭教育力の向上	目 05	社会教育施設費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
青志会館は、市民が仕事の後や余暇を利用して趣味や娯楽を楽しんだり、必要な知識や技術を学ぶための施設であり、また学童保育の実施場所となっている。たくさんの方に利用していただけるよう施設の整備や活動の支援を行う。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
利用者数	人	目標	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
		実績	9,087	10,616	10,552		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
従来からある各種教室やサークルの運営を維持し、新規の教室・サークルの募集を随時行っていく。気軽に施設を利用していただけるよう、周知を行う。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
教養教室・サークル開講数	教室	計画	6	6	6	6	6
		実績	6	6	3		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			2,106	2,137	2,798	2,697	2,430
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		2,106	2,137	2,798	2,697	2,430

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	仕事の後や余暇を利用して趣味や娯楽を楽しんだり、必要な知識や技術を学んだりすることができる施設のため必要である。
有効性	やや高い	館内は、会議室、和室、調理室、多目的ホールがあり幅広い活動ができる。
効率性	高い	学童保育が実施されており、地域の社会教育施設として、生涯にわたる利用が期待できる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

子供からお年寄りまで幅広い年齢層に利用される施設であることから、施設の安全面について点検、維持管理に努める必要がある。また、雨漏りについて、何らかの対応が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	雨漏りの原因究明及び施設の事故防止対策に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	大井 萌莉
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	働く婦人の家管理運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	科 項	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目 目	社会教育施設費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
働く女性及び勤労者家庭等の主婦

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
必要な知識・技能の取得や教養・憩い・レクリエーション等について場と機会を提供し、生活の向上や福祉の増進を図る。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
ゆったりヨガ、コーラス、手芸等の各種講座を開催する。 新しい講師の発掘を行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
働く婦人の家利用者数	人	目標	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000
		実績	9,946	9,888	9,563			
根拠								
		目標						
		実績						
根拠								

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
教養教室開講数	教室	計画		20	20	20	20	20
		実績		18	20	18		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				4,880	4,286	5,252	5,419	4,674
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			4,880	4,286	5,252	5,419	4,674

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	毎年様々な教室を開催しており、依然として利用者から求められている施設である。
有効性	やや高い	受講者のニーズに応じた講座内容となるように心がけており、有効である。
効率性	高い	多くの講座を、格安の講師謝礼で実施しており、経費の削減に努めている。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

学び続けたい意欲のある方の育成・自主グループの活動も熱心に行われているが、受講生の固定化が見られるものもあり、新規の受講者を取り込む工夫が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	年度当初の教養教室募集の際に、以前は電話や直接申し込みが必要であったが、電子申請をできるようにするなど、申し込みやすい環境整備を行った。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		青雲閣管理運営事業	担当部署			生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	3 青少年健全育成の推進		項	04	社会教育費
	施策名	②青少年健全育成の推進		目	05	社会教育施設費
	根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
東福寺野自然公園研修センター(青雲閣)の生涯学習の拠点としての機能を充実させ、多くの市民等に利用してもらう。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
施設利用者数 (宿泊・日帰り)	人	目標	5,000	5,000	5,000		
		実績	490	1,984	2,459		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
東福寺野自然公園研修センター青雲閣を指定管理し運営する。 小中学校や企業等の団体向けに宿泊利用の営業活動を行ってもらい、利用率を上げる。 周辺施設を含めた利用方法を提案し、リピーター増を目指す。 ホームページを利用して周知を図る。

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
開館日数	日	計画	358	358	358	
		実績	358	357	360	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			23,215	24,497	25,281	
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		23,215	24,497	25,281	

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	青少年の健全育成を図ると共に、心豊かに学ぶ生涯学習の場として必要である。
有効性	やや低い	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設利用者数が大きく減少している。
効率性	やや高い	東福寺野自然公園や不永掛遺跡公園等と併せて利用でき、幅広く活用できる施設となっている。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	D

事業の課題

令和5年度末で閉館。

今後の方向性

成果の方向性	統廃合	投入コスト	皆減
--------	-----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	東福寺野自然公園の一体的な整備を含めて検討していく予定である。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	令和5年度末をもって閉館したことから、令和6年度以降、青雲閣管理運営費は廃止。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------